

歯科医の数は十分か

(西ドイツ)

西ドイツの歯科医免許の最高機関である連邦疾病金庫歯科医連盟では、連邦の歯科医の数は現状で十分確保されていると見ている。これは歯科医学生の数をもっと増やすべきだとの声に対して表明されたものであるが、歯科医の数を増やすよりは、保健政策的には歯の病気の克服の方が大切だというのである。

歯科医連盟会長 Zedelmaier によると、現在西ドイツの密度は、疾病金庫が最も望ましいと考えている 1 : 17,000 に近く、いま以上に歯科医の数を増やすことは必要ないと考えられる。現在 33,000 の歯科医の治療における待ち時間の問題は結局医師が農村に比べて都市に集中しているためで、組織を改めることで克服できる。

歯科医学校の新入生は1978年1564名あり、また大学も来年20から25に増えるため、目標としてきた密度は近く達成される。むしろ問題は学生の増加による教育の質の低下である。

連盟会長はまた最近首相 Ehrenberg が公表した保健制度における協調活動に関するコミュニケに対して反論している。コミュニケでは医学志望者と学生に向けて、歯科医の将来の需要に備えてこの分野に向かうことを勧めているが、会長はこれに対し、歯科医の数の増えることは、医療費の低減という協調活動の目的に反すると言っている。歯科医の数が増えれば受診が増え、疾病金庫の支出が高まるし、さらに多数の歯科医は診療報酬交渉に当って金庫に圧力をかけ易くなり、その結果支出がさらに増えるというのである。

この数か月歯科医師会内部で、協調活動に対してボイコットの動きが高まっており、今後の行動について他の医師会とも相談して、医師の独立性を守るべく行動することも考えている、と会長は言明している。

Süddeutsche Zeitung, 3. November

(安積鋭二 国立国会図書館)

西ドイツ

年金保険の財政について (1)

年金保険は1981年保険料が上げられ、新たな収入源を得ることになるが、もし連邦政府の補助金が1980年以前の分について早目に支出されないときは、年金支払いのため外部の資金援助をあおがざるをえないことになり、年金保険史上初めてのことであるが借金をすることになる。もっともこれは1980年度分についてだけで、それ以後は上記の増収が予想されている。

たしかに1980年は公的年金保険にとって難かしい年で、ドイツ年金保険担当機関連盟の計算だと、保険積立金は1980年の末まで約106億マルクと1.2か月分しか残らなくなる。この額だとたしかに支出と収入を見比べて数か月の余裕はあり、また法的にも最低1か月分の積立ての規定に反するわけではない。

しかし106億マルクのうち70億マルクは短、中期の流動資金として残しておかねばならない。特に社会施設および個々の被保険者への貸付けがある。ドイツ年金保険担当機関連盟会長 Werner Doetsch の説明によると、この種の貸付けはどうしても確保しておかねばならないので、これらの資金のためには市中銀行の融資によらざるをえないだろう、というわけである。

これ以外の方法としては、数年来の連邦債務の返還の最終分を引きのばすこ